

授業科目名 <英訳>	偏見・差別・人権 Prejudice, Discrimination, and Human Rights			担当者所属 職名・氏名	国際高等教育院 特定教授 植松 恒夫 非常勤講師 豊福 誠二 医学研究科 准教授 加藤 寿宏 文学研究科 教授 落合 恵美子 非常勤講師 井岡 康時 人文科学研究所 教授 竹沢 泰子			
	群	人文・社会科学科目群	分野(分類)		教育・心理・社会(各論)		使用言語	日本語
旧群	A群		単位数	2単位	週コマ数	1コマ	授業形態	講義
開講年度・ 開講期	2017・前期	曜時限	月5		配当学年	全回生	対象学生	全学向
<b>【授業の概要・目的】</b>								
人間社会における偏見と差別に関わる諸問題を人権の観点から学問的に解明し、教授することは、大学として果たすべき重要な基本課題であるとの認識に立ち、本学学生に人権問題に関する概論を教授するため、全学共通科目「偏見・差別・人権」を開講する。								
<b>【到達目標】</b>								
講義を通じて社会における偏見と差別についての認識を深めると同時に、人権問題を自ら考える機会とする。								
<b>【授業計画と内容】</b>								
以下の5つのテーマを取り上げ、それぞれのテーマに関する講義を行う。								
<p>現代社会における人権の問題(4/10、4/17) 担当：国際高等教育院 非常勤講師 豊福 誠二  本講座では、まず、弁護士である講師が「人権とは何であるか」について概説をする。その上で、近時みられる「ヘイト・スピーチ」の現状を紹介し、なぜこのような現象が発生するのか、どのような被害があるのか、法的規制はどうあるべきかについて考える。</p> <p>障害（disability）に関する問題(4/24、5/1、5/8) 担当：医学研究科 准教授 加藤 寿宏  地域の学校に在籍する児童・生徒のうち発達障害（自閉症スペクトラム障害、限局性学習障害、注意欠如・多動性障害）の可能性のある者は、6.5%といわれている。しかし、発達障害と定型発達との境界は明確ではなく、スペクトラム（連続帯）であることから、診断がつかない者も含めると、その割合はかなり多く、発達障害はもっとも身近な障害であると言える。また、発達障害者の中には、優れた能力がある者も多く、大学や職場で出会う機会も多い。しかし、発達障害は目に見えない障害であるため、偏見・差別が生まれやすい。  本講義では視聴覚教材等も活用し発達障害についての理解を深める。</p> <p>ジェンダーに関する問題(5/15、5/22、5/29) 担当：文学研究科 教授 落合 恵美子  現代日本社会に生きる女性や男性は、その性別（ジェンダー）ゆえに、どのような問題に直面しているのだろうか。本講義は、その現実にも面的に光を当てることから出発する。次にその淵源を探るため、日本の「伝統的」ジェンダー秩序をアジアの文化的多様性の中に位置付け、その歴史的変容をジェンダー史研究の成果に基づいて跡付ける。最後に、現在のヨーロッパ、北米、アジア諸国との国際比較により、現代日本のジェンダーを広い視野に位置づけ、他の社会と共通する点と現代日本独自の点を切り分ける論理を見つけて、課題解決の方向性を考えたい。</p>								
<p>被差別部落に関する問題(6/5、6/12、6/19) 担当：国際高等教育院 非常勤講師 井岡 康時  偏見・差別・人権(2)へ続く</p>								

## 偏見・差別・人権(2)

自由・平等の理念や合理主義などを基調とする近現代の社会が、なぜ古い時代に淵源をもつと考えられる差別を克服できないのか。さまざまな資料を検討しながら、可能な限り差別意識の深奥にせまり、課題解決の道程を探っていききたい。

外国人に関する問題(6/26、7/3、7/10) 担当：人文科学研究所 教授 竹沢 泰子

第1回：京都にも数多く住んでいる在日コリアン。彼らはどのような経緯で日本社会に住むに至ったのか、帰化するか否かの選択の背景に何があるのか、ジェンダーによる違いは何か、現在、差別はどのような形で再生産されているのか、こうした問題を考える。

第2回：今は、ハーフ・タレントたちがメディアを賑わす空前の「ハーフ・ブーム」である。国際結婚は年ごとの婚姻の5%近くを占めており、それに伴い、複数のルーツを持つ人々が増えている。日本社会における「ハーフ」の表象を検証し、それに抵抗・交渉する当事者たちの生き方を探る。

第3回：1995年1月17日の阪神・淡路大震災を機に、「多文化共生」という言葉が日本国中に広まった。あれから20年以上の年月が経ったいま、外国籍住民と日本人住民の関係について、支援を受ける側－支援する側ではなく、いかに対等な関係を築けるか、日本人の意識をいかに変えるかが大きな課題となっている。差別や偏見のない社会に近づくにはどうすればよいのか、ともに考えたい。

コーディネーター：国際高等教育院 特定教授 植松 恒夫

### 【履修要件】

特になし

### 【成績評価の方法・観点及び達成度】

毎回の小レポートと定期試験で成績評価を行う（小レポート40点、定期試験60点）。  
なお、8回以上の出席を定期試験の受験資格とする

### 【教科書】

使用しない

### 【授業外学習（予習・復習）等】

講義内容の復習を行うこと

### 【その他（オフィスアワー等）】